

水源地を見学しようと集まった参加者と民泊体験の受け入れ民家=14日、伊江村の「湧出」展望台



アジアの高校生民泊

14カ国54人 伊江の水環境学ぶ

【伊江】アジア諸国の高校生が沖縄でエネルギー問題をテーマに学び、交流する2013年度アジアユース人材育成プログラム(県主催)が1日から20日まで県内で開催された。参加者は13日から15日まで伊江村で民泊を体験し、古い水源地などを見学した。(28面に関連)

の収穫を話した。

(中川廣江通信員)

「人の温かさ実感」

ベトナムやラオス、シ有サービラ)で同時発信
ンガポールなど日本を含ました。

むアジア14カ国(海外から28人、国内から26人)
の高校生54人とサポート

役のチューター12人、男女合わせて計66人が参加した。

一行は沖縄の暮らしに触れ、村内の水環境の学びとして、村指定有形民俗文化財の井戸「マーガ」や「ミンカザント」(天水留め)などを見学した。

20日の最終日には成果発表を行い、その模様をユーストリーム(動画共

して、言葉が分からなくても人の温かさは伝わる
ことが実感できた」と話した。

東京から参加した東京
学芸大学付属国際中等教
育学校2年生の茶山健太

ブルネイから参加した
ラウ・カ・ヨン君(18)は
「自国にはない日本の技
術やチームワークの大切
さを学んだ」と、伊江で